



## 校長のひとりごと < 3 >

～あいさつから得るもの～

葛川小の子どもたちや葛川中の生徒は、校門で（時には玄関で）「おはよう」と声をかけると必ず「おはようございます」と返事をしてくれます。一日の始めとしてはとても気持ちよいものです。でも最近私は、あることに気づきました。それは小学生も中学生もあいさつするとき相手の顔を見ないであいさつしているということです。大きな声で挨拶しているのですが顔は下を向いていたり、とんでもない方をみえていたりしています。でもこれは決して意識してそうしているのではないと思います。学校の中では小学生はとても親しくお話をたくさんしてくれますし、中学生も親しみを持って接してくれます。そんな子どもたちが朝の挨拶や校長先生にきちんとお話するときは意外とこちらの顔を見ないでお話することが多いのです。

「なぜ？」と私は不思議に思うのです。素直で明るい本校の児童生徒がどうして挨拶するときに下を向いてしまうのでしょうか。恥ずかしいのか、何も考えないで無意識でそうしてしまっているのか、よくわかりませんがやはりせっかくの挨拶の値打ちが下がってしまうように思えてなりません。

そこで、6月は相手の顔を見て挨拶するよう子どもたちに呼びかけていきたいと思います。相手の顔をしっかり見て挨拶やお話しをすれば自分の気持ちがより伝わると思うからです。それも無理やりではなく、自然にできるようになってほしいと思います。

あいさつは

あ	い	て	の	顔	み	て
い	つ	で	も			
さ	わ	や	か	な	声	で
つ	づ	け	ま	し	よ	う

少し強引ですがこんな標語を校内に掲げてアピールしてみたいと思います。「顔をあげて話すことの大切さ」ぜひ理解して葛川小中学校のすばらしさを高めてほしいと願っているのです。

(文責 葛川小中学校長 辰巳 晴生)

